

2025年度業務実績報告書

提出日 2026 年 1 月 7 日

1. 職名・氏名 安 藤 寿 男

2. 学位 学位 理学博士、専門分野 地質学・古生物学、授与機関 東京大学、授与年 1985

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 地層学（2）1年後期，古生物学概論（2）1年後期，地球環境学概論（2）1年後期
②内容・ねらい いずれも地質学・古生物学・地球環境学の基礎的な科目として，2年次以降の専門科目で学習する内容を想定して，それに繋がるような内容を講義した．
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 いずれも，講義スライドをA3紙3～5枚で8枚組みで最大サイズとなるよう印刷して配付し，授業資料とした．今後の学習資料として保存でき，2年次以降の学習に際して随時復習に役立つように統一的なレイアウトで作成した．pdf形式のファイルも Google Classroom にもアップロードして，便宜をはかるようにした．
(2)その他の教育活動
内容

4. 研究業績

(1)研究業績の公表

①著書

高嶋礼詩・安藤寿男 (監修), 安藤寿男 分担執筆, 2025, 地球生命史シリーズ 4 恐竜の時代 中生代. 共立出版, 469p. 担当: 第 3 章 中生代の生物相, 3.1 海生生物 3.1.2. 海生無脊椎動物 (1) 二枚貝類, p.220-238, 第 4 章 日本の中生界の地質と化石 4.3 白亜系, p. 398-436. 2025 年 8 月

【1 本】

②学術論文 (査読あり)

1. Tomaru, T., Takashima, R., Orihashi, Y., Yamanaka, T., Ando, H., Asahara, Y., Nishi, H., Kuroyanagi, A., Otsubo, T., First evidence of the Lower Cretaceous Weissert Event in the Northwestern Panthalassa: carbon isotope stratigraphy and U-Pb radiometric ages of the Soma-Nakamura Group in Northeastern Japan. Newsletter on Stratigraphy, 58, 219-238, 2025 年 3 月

(福島県相馬市～南相馬市に分布する相馬中村層群の最前期白亜紀層である小山田層について, 炭素同位体層序と U-Pb 放射年代から白亜紀前期のワイザートイベントの北西太平洋地域での初めての地質記録を記載しその意義を論じた. 安藤は小山田層の地質調査と層序・堆積相解析を担当.)

2. Yusuke Muramiya, Hiroaki Inose, Fumiaki Utagawa, Daisuke Aiba, Hisao Ando, Ibaraki Hikaru Omori, Chisato Suzuki, Iwaki Natural History Association, Five ammonoids from the Turonian/Coniacian (Upper Cretaceous) boundary horizon in the Ashizawa Formation, Futaba Group, Fukushima, Japan. Paleontological Research, 29, 64-75, 2025 年 5 月

(福島県いわき市アンモナイトセンター化石体験発掘場の白亜紀後期の双葉層群足沢層から産した 5 種のアンモナイト化石を記載し, 同時期の北海道蝦夷層群のアンモナイトと比較しながら産出の意義を論じた. 安藤はアンモナイト産出の地質学的な背景として層序・堆積環境・地質年代の議論を担当.)

3. 田切美智雄・大路樹生・安藤寿男・塙 勝利・及川 晃・加藤太一, カンブリア系火山深成複合岩体中に挟まれる石炭系金山石灰岩の層序・ウミユリ茎板化石・放射年代. 地学雑誌, 134 (3), 275-291. 2025 年 6 月

(茨城県日立市の阿武隈山地に分布する日本で最古の堆積岩であるカンブリア紀の火山深成複合岩体から石炭紀の石灰岩層が見出されたので, その層序, 産出したウミユリの茎板化石, U-Pb 放射年代について記載し, その意義を議論した. 安藤は層序構築を担当.)

【3 本】

③その他論文 (査読なし)

【 本】

④学会発表等

1. 加藤太一, 村田一弘, 小川朋希, 宮田真也, 増川玄哉, 安藤寿男, 上部白亜系那珂湊層群の化石発掘調査の現状と課題. 日本古生物学会第 174 回例会講演予稿集, 32, P19-B, 2025 年 1 月 25 日

(茨城県ひたちなか市の太平洋岸に露出する那珂湊層群の共同発掘調査概要の現況をポスター報告. 安藤が博士学位の主査をした筆頭著者がポスター発表.)

- * 2. 安藤寿男, 北海道白亜系蝦夷層群の調査資料と軟体動物化石標本の寄贈. 日本古生物学会 2025 年年会講演予稿集, 44, D14, 2025 年 6 月 29 日

(この 35 年来, 安藤の調査, 卒論, 修論等の研究で採集した, 北海道蝦夷層群の白亜紀後期軟体動物化石 (二枚貝, 巻貝, アンモナイトなど) を国立科学博物館や北海道内の三笠市立博物館むかわ町立穂別博物館に学術資料として, 地質調査データと共に寄贈した全容を紹介し, 今後の研究利用の可能性を若手研究者に促した口頭発表.)

3. 都丸大河, 高嶋礼詩, 折橋裕二, 山中寿朗, 安藤寿男, 浅原良浩, 黒柳 あずみ, 西 弘嗣, 東

北日本に分布する最下部白亜系の炭素同位体比変動と国際層序対比. 地球惑星科学連合 2025 大会, B-CG06-15, 2024 年 5 月 28 日 (福島県相馬市～南相馬市に分布する相馬中村層群の最前期白亜紀層である小山田層について, 炭素同位体比変動から欧米の同時代層との国際層序対比を試みた研究. 安藤は小山田層の地質調査と層序・堆積相解析を担当.) 4. Taiga Tomaru, Reishi Takashima, Yuji Orihashi, Toshiro Yamanaka, Hisao Ando, Yoshihiro Asahara, Azumi Kuroyanagi, Hiroshi Nishi, The Weissert Event records from terrigenous sequences exposed in the Pacific coast of NE Japan. 12th International Cretaceous Symposium (第 12 回白亜紀国際シンポジウム), 口頭発表, 2025 年 9 月 3 日 (ドイツ・ハノーバー) (3 の学会発表を国際学会で口頭発表したもの.) 5. Hisao Ando, Cretaceous continental arc–trench system of the Japanese Archipelago and wide-area Cretaceous stratigraphical correlations of backarc, intra-/inter-arc, and forearc basins. 12th International Cretaceous Symposium (第 12 回白亜紀国際シンポジウム), ポスター発表, 2025 年 9 月 1～5 日 (ドイツ・ハノーバー) (日本の白亜紀層を網羅する 71 地域の広域層序対比を行い, 日本列島の白亜紀層の層序や堆積相や地質年代を総括した総説論文 (2024 年出版, 英文 55p.) の概要をポスターで紹介. 当時, 日本がユーラシア大陸東縁で陸弧–海溝系をなしていた地質学的背景も解説した.) 6. Hisao Ando, Shunsuke Mitsuzuka, Hikari Uno, Ren Hirayama, Chrono- and sequence stratigraphy, and depositional history of the Upper Cretaceous Kuji Group, Northeast Japan: shallow-marine to fluvial sedimentation of the eastern margin of Paleasian continent. 12th International Cretaceous Symposium (第 12 回白亜紀国際シンポジウム), 口頭発表, 2025 年 9 月 3 日 (ドイツ・ハノーバー) (岩手県久慈地域に分布する白亜紀後期の久慈層群の層序・堆積相・堆積史を詳細に記載・考察した, 英文投稿準備中の論文内容の概要を紹介.) 7. Hisao Ando, Cretaceous stratigraphical correlations of backarc, intra-/inter-arc, and forearc basins within the Paleo-Japan Cretaceous continental arc–trench system: Basic stratigraphical data for reconstructing Cretaceous paleoecosystem including dinosaurs. The 6th International Symposium on Asian Dinosaurs in Japan 2025 (第 6 回アジア恐竜国際シンポジウム), 27, 口頭発表, 2025 年 9 月 26 日 (福井県立大学) (5 の論文内容の概要を紹介し, 日本の白亜紀層の中で恐竜化石を産する地層の位置づけをまとめた, 恐竜相研究の基礎データを提示した.)	
	【 7 件】
⑤その他の公表実績	【 本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績	
【学外】基盤研究 (S) 地磁気逆転現象が気候・生態系に対して与えた影響の検証. 代表者: 岡田誠 (茨城大学) 分担者 【学内】 戦略的課題研究推進支援 (萌芽枠)「第二の恐竜骨格層発見を目指した白亜紀層の地質調査と研究ネットワーク形成」 個人研究推進支援 (海外学会発表支援)「第 12 回 白亜紀国際シンポジウム」	
(3)特許等取得	
(4)学会活動等	
日本地質学会 代議員 公益社団法人 東京地学協会 専門家紹介委員	

5. 地域・社会貢献活動

①-1 委員就任（国：経済産業省資源エネルギー庁 資源・燃料部）

（国内基礎調査実施検討委員会 委員，国内石油・天然ガス基礎調査事業の実施に当たり，中立的な学識経験者からなる委員会の委員として，事業実施地点の選定等に係る検討を行う，2010（平成 22）年 4 月～現在に至る）

①-2 委員就任（県）

（ミュージアムパーク茨城県自然博物館 助言者会議（調査研究の部）助言者）

（ミュージアムパーク茨城県自然博物館 研究報告編集委員会 総括査読委員）

⑥公開講座・トークショー講師

1. 福井県立恐竜博物館 博物館セミナー講師

「白亜紀の世界～日本と世界の白亜紀層を巡って」 2025（令和 7）年 6 月 15 日

2. 滋賀・京都・福井・大阪展 トークショー講師 東武百貨店池袋店 8F 催事場

「大人から子どもまで楽しめる福井県の恐竜おもしろトークショー」

2025（令和 7）年 8 月 16 日

3. つながる福井フェア in 埼玉 トークショー講師 浦和 PARCO 4F イベントスペース

トークイベント「恐竜王国ふくいと化石研究の最前線」

2025（令和 7）年 10 月 18, 19 日

6. 大学運営への参画

(1)補職

(2)委員会・チーム活動

利益相反マネジメント委員会（2025 年 4 月～）

(3)学内行事への参加

オープンキャンパス

入試説明会（鯖江高校，啓新高校，三方高校 2 回，）

(4)その他、自発的活動など